

地

球

大正十三年
十二月

第二卷

地球 第二卷 總目錄 大正十三年七月—六月

圖版及寫真版

第一版	ニュージーランド ワイロア間歇溫泉	(第一號)
第二版	伊豆國、下賀茂の噴湯	(第一號)
第三版	北米、黃石公園、峽谷、老實溫泉	(第一號)
第四版	湯の華 壇 北米黃石公園内マンモス、舊ニュージーランド・ロトマハナ	(第一號)
第五版	モンドール	(第一號)
第六版	佛國エックスレバン浴場	(第一號)
第七版	ライン河、ナメデー泡沸泉と生瀨ウイルクソン工場	(第一號)
第八版	香港市街	(第二號)
第九版	エヴェレスト山	(第三號)
第十版	樺太榮濱郡榮濱村魯禮に於けるアイノ墳墓	(第四號)
第十一版	大阪四近地質圖 二十萬分ノ一	(第四號)
第十二版	島原半島地質圖 二十萬分ノ一	(第五號)
第十三版	島原半島想定構造圖 二十萬分ノ一	(第五號)
第十四版	溫泉火山 寛政熔岩流の末端(千本木)	(第六號)

卷 頭 辭

(第一號)

溫泉に就て	小川 琢治	一
溫泉に對する醫學的考察	藤 浪 剛 一	三
湯屋と風呂屋と溫泉	喜 田 貞 吉	四
アイスランドの大間歇溫泉	横 山 又 次 郎	六
佛國モンドール溫泉場と其附近	田 中 阿 歌 麿	六
カル、スバード	郡 場 寛	八
アポリナリス鑛泉と六甲炭酸水	石 橋 五 郎	九
黃石公園遊覽記	松 山 基 範	一〇
ニュージールランドの溫泉	木 戸 忠 太 郎	一三
朝鮮の溫泉	中 村 新 太 郎	一三
臺灣の溫泉	藤 田 元 春	一四
九州の溫泉に就て	石 川 成 章	一五
溫泉(うんせん)溫泉	佐 藤 傳 藏	一七
三朝溫泉泉源の配置	松 原 厚	一七
熱海溫泉の成分	藤 井 毅 太 郎	一八
上諏訪溫泉地の泉脈に就て	三 澤 勝 衛	一九

溫泉と神社	中村直勝	二〇〇
溫泉と佛教	石川成章	二〇五
溫泉雜記	濱田青陵	二二二
瀨山の溫泉に關する文學	神田喜一郎	二二七
臨潼華清宮溫泉作	鈴木豹軒	二三三
別府溫泉	石川成章	二三三
城崎溫泉	内藤湖南	二三七
紀州山間の溫泉	山本勝市	二三八
伊豆の溫泉	中村新太郎	二四〇
鹽原溫泉	佐藤傳藏	二四九
仙臺附近の溫泉	福井薩男	二五三
八甲田酸湯溫泉	郡場寛	二六六
中山道溫泉雜記	○・A 生	二六九
シュミツド半島第三紀層序論	横山次郎	二九七
間瀬の魚眼石に就て	神田津一	四〇三
氷山の警戒……(シ、ソード)	益田新十郎	四三二
長崎縣立中學校所見一斑	小川琢治	三三三

滿蒙の農業

田中秀作

三三六

ラッセン國立公園(加州)中に存在する温泉の熱源と泉源(デー、及アツレン)

寺田貞次

三四五

渡歐日記 第三信

寺田貞次

三四五

地理教材としての地形圖

東京 大阪 京都 神戶 名古屋 北九州 福岡 佐賀 熊本 鹿兒島 鹿児島 沖縄

神津徹佑

三六七

地震火災と岩石

神津徹佑

三六七

地文及地理學上より見たる九州西北部

小川琢治

四〇一

回教世界(一)(パウマン)

小川琢治

四〇一

地層對比の理論(トゥルウマン)

小川琢治

四〇四

戰場としての支那の地勢に就て

小川琢治

四〇九

樺太アイノに關する人類學的探究紀行

清野謙次

四七七

近畿地方地質雜觀(一)

石川成章

四九六

ジオグラフィカルプロビンスに就きて

上治寅次郎

五〇五

シユナイダー氏の火山基本型分類の價値

本間不二男

五〇九

空中寫眞による測量の現勢

大村齊

五四九

金峯山彙と熊本地震

小出亮

五六一

地球内部の成分に就て(タンマン)

小出亮

五六一

ローザンヌ會議

小出亮

五六一

黒鑛々床中の螢石に就て……………木下龜城……………六四六

富江熔岩隧道の研究……………川原^{アキラ}……………六四〇

朝鮮陸橋に就て(トラウツ)…………………………六七四

西方亞細亞に於ける新興諸國…………………………六八〇

講話

地球の生れるまで、(六、七、八、九、十完)……………松山基範……………
三六四
五四三
四三二
三二一
二一〇
一〇九
九七八
八六七
七六六
六五五
五四四
四三三
三二二
二一一
一〇〇
九八九
八七八
七六七
六六六
五五五
四四四
三三三
二二二
一一一
〇〇〇

雜報

地球 第二卷 總目次

エクスレパンの温泉	一九五
アイスランド膝栗毛(フオルプス)	二〇七
徳川時代の有馬温泉	二六八
人語に随つて湧出す温泉	二七三
原雙桂の温泉小言	二七三
昔の熱海間歇泉	二七四
箱根温泉	二七八
温泉めぐりみち草	二八一
登別温泉	二九五
火山岩中に含まるる沸石類	三二〇
鴨綠江解氷年表	三三三
梅花石備後雙三郡吉舍町附近に産す	三三三
長野縣下伊那郡八重河内の白聖紀層	三七三
東蒙古の石炭採掘現況	三七四
伊太利の移民	三七五
石油船の時代	三七五
世界原油産額(一九二三年)	三七六
本邦産蜜柑と米國	三七七
江蘇米日本向積出	三七七
米の需要供給現狀	三七七
故神保博士の歐文著述目錄補遺	三七九
A・ゲーキーの米賀	三七九
文檢地理科問題	三七九

文檢地理科口頭試驗問題	三六〇
松崎層中のクナベニ層	四一〇
九州主要温泉並金山(一五四頁地圖の説明)	四一八
朝鮮雜信—平北道廳移轉—釜山要塞地帶	四三三
長崎縣雪の浦貝塚の石器時代人骨	四四四
青炭の未來の勝利	四四四
佛國の養蠶	四五四
伯國產棉花生產の將來	四五五
甲谷陀の近狀	四五五
チエラデルフエゴの未開民族	四五六
羅甸亞米利加の砂糖	四五六
露西亞に於ける鐵鑛床の發見	四五六
スエズ運河の旅客數	四五七
印度スクルの灌溉工事	四五七
湖南の雨傘	四五七
安徽	四五八
内地に於ける乳肉卵の需要供給	四六八
我が國內地の茶葉趨勢	四六〇
全國中等學校	四六一
在外鮮人の狀況	四六一
圖版第十の解説	四九五
奈良縣吉野郡川上村北利田の石灰洞	五四一
世界最深の海底日本近海に發見さる	五四二
羽越線開通と石油製品の輸送	五四二

佐渡に「スモスチルス」發見さる	五四二
日本の白墨紀とその分類	五四三
滿洲錦朝鐵路の近況	五四三
ロスアンゼルス港の殷盛	五四三
露西亞韃靼人共和國の土地の性質	五四四
アルプス山系中の交通路	五四四
十二、三版について	五九七
日本の富力	五九六
ノールウエーの首都の改名	六〇八
町村變更	六二二
但馬湯村温泉の泉源と泉溫	六二二
最近の佛國國勢	六二三
英領コロンビヤに於ける氷河期以後の新火山	六二三
露國の石油産額	六二三
山東棉狀況	六二三
巴奈馬通過船	六四〇
新市場としての西阿沿岸	六四〇
文檢地理科豫備試驗問題	六四五
全國都市富力	六六三
上總西南海岸段丘の介層	六七九
岩國の錦帶橋	六九六
日本海底の大半島	七〇五
八重山列島の海底噴火	七〇五
露西亞の新地名	七〇五

新刊紹介

葡國の激震	七〇六
世界の生糸と其産額	七〇六
「カストリ」港灣の價值	七〇七
山東の葉煙草	七〇七
雲南の鴉片玉	七〇八
南阿蟬虫の利用	七〇八
北亞細亞に於ける恐龍	七〇八
政治地理雜誌の新刊	三六〇
Countries of the World	三六一
第一回中國年鑑	三六一
中華全國風俗誌	三六一
地理教材研究第四輯	三六二
Winbeck and Finch: Economic Geography	四六三
Mount Everest; the reconnaissance 1921. By Howard Bury.	四六三
風景の科學	五四六
武藏野及其周圍	五四六
朝鮮部落調査特別報告第一冊	五四七
地理教育	六三三
關東大震災調査報告(氣象編)	六三六
鐵道旅行案内	六三六
新支那論	七〇九
シーホルト先生渡來百年記念論文集	七〇九

質疑應答

文檢地理科試驗問題解説	三六二・四六四
日本の地質圖	三六五
岩石研究の好參考書	五四七
斷層谷と浸蝕谷	六三
小川琢治氏著日本地圖帖	六三
湖水の定常振動	七〇
赤經赤緯	七二
天球面に於ける太陽の位置	七二
太陽の赤經	七二
世界産金の近況	七三
新著題目	三六二・四五一

溫泉號 地球

第二卷第一號

大正三十三年七月一日發行

主 要 目 次

圖版	ニージーランド・ワイロア間歇溫泉、伊豆國下賀茂の噴湯、北米黄石公園、湯の峠、モントルー、佛國、ツクスレゲン浴場、ハイナマター泡沸泉、生瀧カイルキンゲン工場	醫學博士 小川 琢治
溫泉に就て	醫學博士 藤 渡 剛	一
溫泉に對する醫學的考察	醫學博士 喜 田 貞吉	一
湯屋と風呂屋と溫泉	文學博士 横 山 又次郎	郎
アイスランドの大間歇溫泉	醫學博士 田 中 阿歌郎	郎
佛國モントルー泡沸泉とその附近	文學博士 郡 場 寛	寛
カル、スパー	理學博士 石 橋 五郎	郎
アポリナリス鐵泉と六甲炭酸泉	文學博士 松 山 基範	範
黃石公園遊覽記	理學博士 木 戸 忠太郎	郎
ニージーランドの溫泉	理學博士 石 川 成	成
九州の溫泉	理學博士 佐 藤 傳	傳
溫泉(うんせん)溫泉	理學博士 松 原 厚	厚
三朝溫泉泉源の配置	文學博士 濱 田 青陵	陵
溫泉雜記	文學博士 内 藤 湖	湖
城崎溫泉	文學博士 鈴 木 豹軒	軒
臨潼華清宮溫泉作	文學博士 鈴 木 豹軒	軒

京 都 帝 國 大 學 理 學 部

地 質 學 教 室 內

第二卷第二號豫告

圖版……………市街香港

間瀬産魚眼石の熱的研究……………

理學博士 神津 俣 祐

理學士 益 田 峯 一

同 自 在 丸 新 十 郎

シユミツド半島第三紀層序論……………

理學士 槇 山 次 郎

滿蒙の農業……………

文學士 田 中 秀 作

渡歐日記……………

文學士 寺 田 貞 次

回教世界(バウマン)……………

氷山監視(シ・ワード)……………

地層對比の理論……………

講 話

地球の生れるまで……………

理學博士 松 山 基 範

雜 報 新刊紹介

質題應答

文檢豫備試驗問題に就て

地球

第二卷 第一號

溫 泉 號

第二卷 第一號 目次

第一版 ニュージールランドワイロア間歇温泉……………

第二版 伊豆國下賀茂の噴湯……………

第三版 北米黄石公園、峽谷、老實温泉……………

第四版 湯の華壇 北米黄石公園内メンモス。舊ニュージールランド、ロトマハナ……………

第五版 モンドール……………

第六版 佛國エツクスレバン浴場……………

第七版 ライン河、ナメデー泡沸泉と生瀬ウイルキンソン工場……………

卷 頭 辭……………

温泉に就て……………

温泉に對する醫學的考察……………

湯屋と風呂屋と温泉……………

アイスランドの大間歇温泉……………

佛國モンドール温泉場と其附近……………

カル、スバード……………

理學博士 小川 琢 治……………一

醫學博士 藤 浪 剛……………三

文學博士 喜 田 貞 吉……………四

理學博士 横 山 又 次 郎……………五

子 爵 田 中 阿 歌 麿……………六

理學博士 郡 場 寛……………六

フボリナリス鍬泉と六甲炭酸水

文學博士 石橋五郎……一九

黃石公園遊覽記

理學博士 松山基範……一〇五

ニュージールランドの溫泉

理學士 木戸忠太郎……二三

朝鮮の溫泉

理學士 中村新太郎……二三

臺灣の溫泉

文學士 藤田元春……一四三

九州の溫泉に就て

理學士 石川成章……一五三

溫泉（うんぜん）溫泉

理學士 佐藤傳藏……一七二

三朝溫泉泉源の配置

理學博士 松原厚……一七六

熱海溫泉の成分

理學士 藤井毅太郎……一八三

上諏訪溫泉地の泉脈に就て

…… 三澤勝衛……一九〇

エクスレバンの溫泉

…… 一五五

溫泉と神社

文學士 中村直勝……二〇〇

溫泉と佛教

理學士 石川成章……二〇五

アイスランド膝栗毛（フアルプス）

…… 二〇七

溫泉雜記

文學博士 濱田青陵……二二三

驪山の温泉に關する文學	文學士	神田喜一郎	二二七
臨潼華清宮温泉作	文學博士	鈴木豹軒	二三三
別府温泉	文學士	石川成章	二三三
城崎温泉	文學博士	内藤湖南	二三七
紀州山間の温泉	經濟學士	山本勝市	二三八
伊豆の温泉	文學士	中村新太郎	二四〇
鹽原温泉	文學士	佐藤傳藏	二四〇
仙臺附近の温泉	文學士	福井薩男	二四三
八甲田酸湯温泉	理學博士	郡場寬	二六六
徳川時代の有馬温泉			二六六
原雙桂の温泉小言			二七三
昔の熱海間歇泉			二七四
箱根温泉			二七六
温泉めぐりみち草			二八一
中山道温泉雜記	O・A	生	二八九
登別温泉(ストーブス嬢日本日記)			二九五

卷 頭 辭

本誌は一月の創刊以來半年に亘つて現時日本の地學者に最も緊要の問題と認められた地震に向つて我々同人の觀察と考究しつゝある所を傾注し、全誌面の大半を之に割き來つたに對し、讀者も亦た存立の理由として編輯者同人の微意を諒せられたこと、信する。此の問題たるや決して半年一年の間に容易に片付けられ得るものではないから、將來引續いて時々本誌上に掲載する積であるが、今や卷を改むるに當つて時恰かも夏季休暇の旅行季節に入り、本誌讀者が見學或は休養の目的で家庭を出で教室を離れられるのであるから、讀者の自然現象考察の一端として本誌全誌面を溫泉に關する事に委ねることにした。

環太平洋地域に屬する日本は地震や火山活動の舞臺となつて人心の恐怖を惹き起す運命を免れぬが、自然は又た溫泉の湧出に於て其の暴威に償ふ爲めに此の地方の住民に慰安休養の途を開いてゐる譯である。故に此の天恵を空くせぬには溫泉其もの、性質を知り之が利用の方法を講じて、其の最大限の效果を收得すべきである。然るに今まで溫泉の案内記はあつても又た之に關する科學的研究は専門家の報告はあつても、系統的に纏めた單行本がない。本誌の今茲に試みんとする所も亦た十分に此の缺陷を補ふには餘りに小さく且つ雜駢たる性質上許されない。然れども幸に斯學の各方面に涉つて専門諸家の寄稿を得たから幾分か日本及び世界の溫泉に關して種々の方面から興味ある智識が集つて消夏の一助にはなり得るかも知れぬ。

地學愛好者の加團を慫慂す

「地球」編纂同人が曩に地球學園を設けてから、多數の地學愛好者の賛同を得て、幸に地球發刊の基礎を確立したと同時に日本地學界に新しい聲壓を惹起した。此の上にも各自の研究を容易にし且地學を民衆の所有たらしむるには大なる學園を形作ることを要する。

それで發行所内外出版株式會社に對して一箇年又は半箇年の地球購讀豫約を申込みれる方は同時に地球學園に宛て加入を申込みれんことを希望する。我學園は月刊誌發行の外に地學に關し單行圖書の出版や、講演會や、地方見學を企畫して居る。團員は之等企畫の實現に際し幾多の便宜を獲るのは無論のことである。

大正十三年七月

小	協	石	神	中
川	水	橋	津	村
琢	鐵	五	俣	新
治	五	郎	祐	太

地球學團規約

- 第一條 本學團は地球學團といふ。
- 第二條 本學團は地球學に關する學術的研究を進め兼て同好の士の親睦をはかるを目的とする。
- 第三條 又會員が多き地方には支部を置く事がある。
- 第四條 本學團の事業は次の如くである
- 第五條 本學團は地球學の指導
- 第六條 本學團は地球學の指導

註文規定

- 團員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申下され度候
- 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下さるべく候
- 振替貯金にて御送金は(振替大阪三二九五番三九三一番東京三九三一番)内外出版株式會社宛に願上候
- 前金切れの場合に「前金切」の印章押捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

定價

一冊	定價金五十錢	郵税金貳錢
六冊(前金)	定價金參圓	郵税不申受
十二冊(前金)	定價金六圓	郵税不申受

廣告料

一頁 金五拾圓 半頁は取扱不申

大正十三年六月廿五日印刷納本
大正十三年七月一日發行

第二號卷

複製許不
載轉禁

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版株式會社

本所 京都市下京區西洞院通七條南
出張所 京都市京橋區加賀町十番地
販賣所 京都市神田區錦町一ノ十九

内外出版株式會社

所 捌 賣

(東) 東京堂
(大) 大阪盛文館
(神) 神戸共盛社
(京) 京都共盛社
(名古屋) マガジン
川瀬書店
三誠堂
大瀨進堂
川瀬書店

編輯者 藤田元春
有代表者 大谷仁兵衛
發行者 村上勘兵衛
印刷者 印刷所
印刷所 内外出版株式會社印刷部
京都市西洞院通七條南

CHIKYU-THE GLOBE

Vol II. No. 1. Thermal Springs Number July 1924.

- Pl. I. The Wairoa Geyser in New Zealand.
 Pl. II. Thermal Spring at Shimokamo, Izu.
 Pl. III. The Old Faithful and the Canyon, Yellowstone.
 Pl. IV. The Mammoth Spring, U. S. A. and Rotomahana,
 New Zealand.
 Pl. V. Mont Dore, France.
 Pl. VI. Aix-les-Bains, France.
 Pl. VII. Namedy on the Rhine and Wilkinson's Tansan
 Factory at Namaze, Settsu.

T. Ogawa, On Thermal Springs.....	1
G. Fujinami, A Medical Consideration on Hot Sp- rings.	33
M. YokoYama: The Geyser in Iceland.....	62
A. Tanaka: Bath-resorts of Mont Dore, France.....	68
K. Kōriba: Karlsbad.....	86
G. Ishibashi: The Apollinaris Water and the Rokko Tansan.	91
M. Matsuyama: Yellowstone National Park.....	105
C. Kido: Hot Springs in New Zealand.....	123
S. Ishikawa: Thermal Springs in Kyūshū, Japan.....	152
D. Satō: Unzen Hot Springs, Hizen....	171
A. Matsubara: Hot Springs at Misasa, Hōki Prov.....	178
K. Misawa: The Suwa Hot Springs, Shinano Prov.....	190
T. Naito: Baths at Kinosaki, Tajima Prov.....	227
etc. etc. etc.	

Chikyu Gakudan
 Kyoto